



第2回 学校運営協議会 8月10日(火) 相良中学校 会議室にて

- 内 容
- ①校長あいさつ
 - ②講 話「フードバンクふじのくにの活動…生活困窮児への支援」
講師 鈴木和樹 氏 (ふじのくに事務局次長)
 - ③一学期学校評価について
 - ④教職員の働き方改革について
 - ⑤校則の見直し



<出席者> 学校運営協議会委員、校長、教頭、相良小今野 CS ディレクター、教育委員会 (田中主席指導、本目教育コーディネーター)

講話「生活困窮児の支援」

・ 現在の日本は、フードロスが問題になる一方で、経済的に苦しい家庭に食品を贈る活動を続けるフードバンクの活動がある。そんな日本の問題に正面から取り組んでいる方の話を聞くと、NPO 法人フードバンク「ふじのくに」の鈴木和樹事務局次長を講師に招き、その活動に関して学習会を持っていました。鈴木事務局長の幼少期からの自分の体験を交えた講話は説得力があり、そして現在の取組には熱い思いを感じることができました。学校運営協議会が、直接学校運営の諸課題に関することを協議するだけでなく、こんな日本が直面する課題に関して学習するって相良中学校運営協議会の意識の高さを感じました。

市内の学校の運営協議会の参考になるかわかりませんが、牧之原市が参考としている杉並区の天沼小学校の学校運営協議会では、このような講師の講話とは違いますが、立ち上げた当時、自分たちの学校のことや子どもたちを理解するために、養護教諭に子どもたちのけがやむし歯といった実態の話を聞いたり、先生方が進める授業づくりに関して担当の先生から話を聞いたりしていただくと聞きました。学校の諸課題を協議する前に、「学校を知る」ことが、より学校運営への協力につながると思います。



フードバンクふじのくに 鈴木事務局次長

教職員の働き方改革 (平日の時間外削減)

・ 先生方が、より生き生きと子どもたちと向き合う職場となるために、現在の勤務の見直しを図りそれに伴って学校の日課の見直しを考えていることが提案されました。運営協議会の委員から、「先生方の本務である授業づくりに専念できる環境をめざすことが、子どもの学びの充実につながる」「現在、学校が家庭教育で育むことまでも背負い過ぎているかもしれない」「保護者の立場で考えれば、今まで学校でおこなっていたことを変えるのは、十分な協議がなければ理解を得にくい。」など、様々な意見が出されました。

結論を急がず、提案、それに対する意見をお互いにしっかりと受け止め、変えるねらいを学校、保護者が共有できるよう学校運営協議会の委員として協力していこうという話し合いをみることができました。



校則の見直しについて

・ 学校生活の約束に関して、子どもたち・保護者とおこなっている見直しについての現状報告がありました。

より現在の子どもの生活に適した約束になるように取り組んでいることがわかりました。

そして、見直される約束を、委員の皆さんと共有するために、第3回の運営協議会の日を前倒して提案(検討)するようです。

学校・生徒・保護者が約束を変更しようという提案を共有し、(共有できるまで協議し)その方針の支援者(応援団)となろうという意気込みを感じることができました。コミュニティ・スクールを立ち上げて2年目の相良中、委員の皆さんが、学校からの提案や報告に関して、当事者意識をもって取り組んでいることを感じることができました。



お知らせ



8月初旬、文部科学省の地域学校協働活動推進室から、『牧之原市のCSを11月6日(土)東京三鷹市で行われる「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」で発表してほしい。』という依頼がありました。実践校の代表として、勝間田小CS、萩間小CSを熟知している櫻井校長先生を中心に発表を行っていきたいと思います。(櫻井校長先生には、忙しい中、快く承諾いただき感謝しています)是非、WEB参加でよいので、各校参加の申し込みをしてほしいと思います。(開催通知が県教委からメールされると思います)発表は決まっても、具体的なことはまだ文科省から何も連絡をもらっていないのですが…。でも、すでに、講演していただいた小西CSマイスターから発表への応援メッセージが届きました。